

はじめに

健康寿命が世界一の長寿社会を迎え、高齢者から若者まで、全ての人に活躍の場があり、元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要があります。そのためには、未来を担う子供たちに、「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」を育むことが重要です。

特に体力は、人間のあらゆる活動の源であり、物事に取り組む意欲や気力といった精神面の充実に深く関わり、人間の健全な発達・成長を支え、健康で充実した生活を送る上で大切です。そのため、幼児期から運動に親しみ、自ら体力を高めていく習慣を身に付け、生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力を育むことが求められています。

令和4年3月、東京都教育委員会は、総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画）として、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」（以下「TAP」という。）を策定しました。「TAP」では、「運動やスポーツとの多様な関わりを通して、健康で活力に満ちた生活をデザインすることができる」ようにするために、「する・みる・支える・知る」の視点を重視する中で、一人一人が運動やスポーツとの関わり方を見付けられるようにすることで、体力を高めることを目指しています。

具体的には、「個別最適な学びを実現する授業の実践」「スポーツライフの推進」「健康的な生活スタイルの確立」「多様なニーズに応じた運動部活動の充実」「東京2020大会レガシーの浸透」の5つのプロジェクトを設定することとしました。また、具体的な取組の質を高めていけるように、プロジェクトごとに、成果指標を整理しました。

この度、令和4年度の本調査結果を「TAP」の成果指標に基づき取りまとめました。学校の取組や区市町村教育委員会における施策の基礎資料とするとともに、家庭や地域、そして関係する様々な団体等と連携し、児童・生徒の体力向上の実現に向けた取組等において活用していただきたいと思います。

令和5年2月
東京都教育委員会

目次

第1章 調査の概要

| | |
|-------------------|---|
| 1 調査の目的 | 4 |
| 2 調査の名称 | 4 |
| 3 調査校数 | 4 |
| 4 調査の対象 | 4 |
| 5 調査の方式 | 4 |
| 6 調査事項 | 5 |
| 7 調査実施期間 | 5 |
| 8 調査結果に関する注意事項と説明 | 5 |

第2章 調査結果・考察

| | |
|--------------|----|
| 1 調査結果の概要 | 8 |
| 2 調査結果に関する考察 | 10 |

第3章 調査結果（クロス集計）

「TOKYO ACTIVE PLAN for students」の成果指標

| | |
|---------------------------------|-----|
| 1 【PROJECT 1】個別最適な学びを実現する授業の実践 | 18 |
| 2 【PROJECT 2】スポーツライフの推進 | 60 |
| 3 【PROJECT 3】健康的な生活スタイルの確立 | 102 |
| 4 【PROJECT 4】多様なニーズに応じた運動部活動の充実 | 158 |
| 5 学校の取組 | 172 |
| 6 トリプルクロス集計 | 196 |

第4章 調査結果（経年変化）

| | |
|-------------------------|-----|
| 1 体格及び体力・運動能力の種目別平均値の推移 | 202 |
| 2 運動やスポーツに対する意識の推移表・グラフ | 230 |
| 3 生活・運動習慣等の推移表・グラフ | 234 |
| 4 昭和60年度の東京都調査結果との比較 | 242 |

第5章 調査結果（基礎集計）

| | |
|----------------|-----|
| 1 東京都の平均値一覧 | 244 |
| 2 体格調査結果 | 249 |
| 3 体力・運動能力調査結果 | 251 |
| 4 生活・運動習慣等調査結果 | 255 |
| 5 学校質問紙調査結果 | 280 |

【参考資料】

| | |
|-----|-----|
| 調査票 | 290 |
|-----|-----|